

81

解答 c

- a. 左右一対ずつ、大動脈後面より分岐し、腰筋、腹筋などに枝を出す
- b. 一般に腎動脈直下で大動脈前面より一対ずつ分枝する
- c. 頻度的には、腎動脈より分枝すると考えられる
- d. 大動脈の腹腔動脈基枝部、直上部より分枝する
- e. 第二、三腰椎の高さで腹部大動脈から分枝する

82

解答 e

- a. 辺縁領域に多く発生し、T2 強調画像にて低信号を示す
- b. 内線は不均一信号強度にみえ、前立腺癌の評価は難しい
- c. 早期相にて増強効果あり、dynamic MRI が有効とされる
- d. 高信号を示し、診断能に寄与する
- e. 最近では診断に有効との報告もあるが、教科書的には、また他の選択枝との兼ね合いから間違いと考えられる

83

解答 b

- a. 悪性腫瘍は周囲との癒着強く捻転しにくいと考えられる
- b. 最も頻度が高いとされる
- c. 奇形腫よりは頻度が低い
- d. 総数として奇形腫より頻度が低いと考えられる
- e. 悪性腫瘍は周囲との癒着強く捻転しにくい

84

解答 c

腹水、腹膜の肥厚、腸管壁の造影効果、脂肪織の濃度上昇はいずれも感染性腹膜炎に認められることがあるが、腹水は濃度上昇をきたすことがあっても、腹水濃度低下はきたさないと考えられる

85

解答 e

ガスの露出、腸管壁肥厚、脂肪濃度上昇、液体貯留いずれも認められることがあるが、腸管膜損傷では、大量出血をきたす可能性のある血管損傷による造影剤の露出がより重要と考えられる

以上、81～85は佐藤洋一会員（埼玉医科大学）